

アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

コロナ禍となり2度目の夏休みを迎えます

延期されていた東京オリンピック2020が開幕しました。緊急事態宣言が発令されている都市での開催には様々なご意見があろうかと思いますが、この日のために努力を重ね人生を賭けてきた選手のことを考えると開催してよかったと思います。しかしやはり、感染者数が増え続け、千葉県にも緊急事態宣言が発令される事態になると複雑な気持ちにもなります。

私たちにできることは、コロナの感染防止を徹底した日常生活を送りつつ、オリンピックをテレビ等で楽しむこと。考えて見ると、前回1964年の東京オリンピックの時も多く国民が普及し始めたテレビの前での応援でした。私は小学校2年生でしたが、その当時はまだテレビが無い家庭も多く、あっても白黒が普通でした。でもなぜか学校の教室には、オリンピックに合わせて出始めたカラーテレビがあり、体育の時間はクラスメイトと食い入るようにテレビでオリンピックを観戦していた記憶があります。10月10日の開会式の記憶は特に鮮明で、秋晴れの爽やかな青空、聖火ランナーの白いユニフォーム、聖火台に点火された炎など、カラーテレビならではの鮮やかな色合いを、子どもながらのワクワク感と共によく覚えています。

無観客での開催は、選手にとっては物足りなさが残るのかもしれませんが、開催できたことを良しとしていただき、私は、「自国開催といっても生で観戦できるのは一部の人だけ」「応援の仕方は前回とあまり大きな変化はない」と割り切って家のテレビの前で応援することにします。

さて、コロナ禍となり2度目の夏を迎えました。4種委員会として昨年度の反省から、なんとか子ども達がサッカーのできる環境づくりに努めてきましたが、4月の北ライオンズ杯、5月のわんぱくサッカー大会に続き、8月の松木杯も何とか開催の目処が立ちほっとしているところです。松木杯は何といても6年生にとって、夏休みの一番楽しみな大会だと思います。去年は交流戦形式での大会でしたが…。

しかし、ここへ来て緊急事態宣言が発令されるに至り、市川市の公的施設の利用制限が危惧されることとなりました。学校施設やスポーツ施設が利用禁止となると、開催形式の変更や中止を考えざるを得ません。そうならないように願うばかりです。市川市に対しては一律に利用禁止とするのではなく、外のスポーツに対しては観戦防止を徹底して活動することを可とするように働きかけて参ります。

私は、感染防止のルールを一番守っているのは子ども達だと思います。子ども達がサッカーをしていて感染したという例も聞いたことがありません。このまま大会が中止にでもなってしまうたら、子ども達は思うでしょう。「大人たちがルールを守らず感染が増えたせいで、僕たちの大会が中止になってしまった。僕たちはいつもマスクをし、給食の時もおしゃべりをせずに前を向いて一人で食べているのに…」子ども達こんな思いをさせないようにと願うばかりです。オリンピックをテレビで楽しんだ後は、外でサッカーを楽しむ。こんな夏休みになって欲しいと思います。

市川FCレーベ（市川トレセンの県登録チーム）が8月28、29日に茨城県で開催される関東大会に出場します。千葉県予選では、2回戦で柏レイソルU12を破って波に乗り、準決勝で船橋FCに惜敗しましたが、3位決定戦でVIVAIO船橋に勝利し、千葉県第3代表となりました。日程が松木杯決勝と重なり、ご迷惑をおかけするクラブには誠に申し訳なく思いますが、市川市の代表として頑張ってきます。応援よろしくをお願いします。

